



# ブルネイ・ダルサラーム 教育旅行ガイド

**BRUNEI DARUSSALAM**  
Educational Travel Guide





ブルネイ・ダルサラームは「ブルネイ・平和の郷」の意味。色彩豊かな自然のなか、王室の権威と宗教に根差した伝統的な生活が息づいています。1984年に英国から独立したのち、国連をはじめ東南アジア諸国連合(ASEAN)、イスラム協力機構(OIC:旧イスラム諸国会議機構)、英連邦(コモンウェルス)、アジア太平洋経済協力会議(APEC)などの地域機関や国際機関に加盟し、石油や天然ガスなどの資源をもとに、経済成長を続けてきました。

国民性は穏やかで、ホスピタリティも豊か。政府により医療、教育などはほぼ無償で提供され、質の高い医療を提供する病院や診療所も多数あり、医療制度も充実しています。

近代的な発展が進む首都のバンダル・スリ・ブガワンには世界中から多くのビジネス客や観光客が訪れ、ホテルの数も豊富です。洗練されたショッピングモールや飲食店も多く、街は清潔。一歩郊外に出ると、いたるところにある豊かな緑の中でトレッキングを楽しむこともできます。ジャングルには何世紀にもわたりこの地に生息してきた熱帯雨林がそびえ、エコツアーを通して自然環境についての学びも得られます。短い移動時間の中で、自然体験や伝統文化、産業施設訪問など、変化に富んだプログラムが組めることもブルネイならではの魅力です。研修の合間に目にする海辺の絶景や夕焼け空の美しさは格別です。ブルネイ・ダルサラームは日本にとって皇室や貿易を通じての強い結びつきを有するパートナーです。皆さんもブルネイ・ダルサラームと日本の架け橋になってください。お待ちしております。

Brunei Darussalam

## 平和の国

# 「ブルネイ・ダルサラーム」

## へようこそ



### 01 安全で平和な国

政権が安定し自然災害が少なく、治安の良いブルネイは1年中いつでも安心して訪問できる体制が整っています。公共の場所での飲酒や喫煙も厳しく禁じられているため学生たちは安心して滞在を満喫できます。



### 02 イスラムの生活文化体験

ブルネイの基本理念は「メラユ・イスラム・ベラジャ(MIB)」と呼ばれるマレー・イスラム君主制です。王政とイスラムの教えに則った伝統的な生活様式や精神文化が見聞できます。先入親にとられず異文化に触れてみましょう。仕事においては男女平等で、女性の活躍も著しいです。



### 03 コミュニティの中での異文化体験

ブルネイには7つの異なる部族が暮らしています。各々が独自の伝統文化を継承しながら現在に至ります。そのコミュニティを訪ね彼らの生活様式を垣間見ませんか?短い移動時間でどっぷり異文化に浸ることができるのもブルネイでの醍醐味です。



### 04 熱帯雨林が育む多様な生態系

ブルネイで太古からの熱帯雨林が原型を保っているのは政府の長年の自然保護政策の賜物です。世界中の研究者が注目するブルネイの森が育む多様な生態系は自然の宝庫です。体感しながら学びを深めてください。



## ブルネイで教育旅行をおすすめする8つの理由

ブルネイでの教育旅行における最大の特徴は、この国の立憲君主制と宗教に基軸を置いたイスラム社会の中で育まれた文化と伝統に基づく人々の暮らしを見聞することです。教育水準も高く、学校交流を通しての英語学習も可能。国が誇る豊かな手つかずの自然を通して環境保全について学ぶこともできます。

### 05 英語が普及

公用語はマレー語。英語教育環境が整っているため、英語は汎用性の広い言語として、国内で使用されています。学校や大学の教育水準が高く、学生も熱心です。日本の学生にとっては交流を深めて異文化理解をすると同時に英語学習のまたとない機会にもなります。



### 06 思いやりの精神に満ちた国民性

ブルネイ人は家族を大切に地域社会との関わりが強い日常生活を送っています。ぜひ現地の人と触れる機会を多く持って、ブルネイ流おもてなしの温かみと心地よさを味わってください。



### 07 同世代間交流で国際理解学習

学校や大学も海外からの学生の訪問受け入れに積極的です。一過性の交流ではなく帰国後もお互いに繋がり続けられるような関係を築いていけるのもブルネイ人の国民性ならではの魅力です。



### 08 日本との距離が近い

ブルネイにとって日本はとても身近な国で親日家も多いです。成田空港から直行便でおよそ6時間半。時差も1時間なので身体への負担が少なく、現地での活動に思う存分取り組みます。



### 「平和の郷」ブルネイでかけがえのない学びを 公益財団法人日本修学旅行協会

ブルネイは「平和の郷」と呼ばれる美しい国です。豊かな経済、治安の良さは、生徒の安全を第一に考える教育旅行において、理想的な環境と言えるでしょう。イスラム教徒が大多数を占めるブルネイでは、美しいモスクや王宮などのイスラム文化や、水上集落での伝統的な生活様式、熱帯雨林の雄大な自然など、教科書では学べない貴重な体験ができます。公用語はマレー語ですが、英語も広く通用します。ブルネイの人々は温厚

で親切で、おもてなしの心が溢れています。生徒たちは現地の学生や人々との様々な交流を通して、異文化理解を深め、人間性を磨くことができるでしょう。成田から約6時間半とアクセスも良好で、物価も比較的安価な点も魅力です。限られた時間と予算の中で、充実した教育旅行が実現できます。ブルネイでの教育旅行は、生徒たちに忘れられない思い出と、かけがえのない学びを提供してくれるでしょう。まだまだ知られていない魅力的なブルネイを教育旅行の訪問国として是非ご検討頂ければ幸いです。



# 歴史・文化 HISTORY & CULTURE

## ブルネイの歴史や イスラム文化を学ぶ

ブルネイはイスラム教と立憲君主制を基盤とした政策と豊かな天然資源による産業を中心として、国民生活や教育、自然保護に力を入れています。日本では触れる機会の少ないイスラム文化や、イスラム教を土台とする生活習慣の見聞は、この国ならではの学習のチャンスです。



### イスラム芸術とブルネイの伝統の粋 ジャメ・アスル・ハサナル・ボルキア・モスク



現ハサナル・ボルキア国王の即位25周年に完成。外観から内装に至るまで、ブルネイの伝統的様式の結晶ともいえる建物です。時間限定で外国人でも内部見学が可能。お祈り前の清め方も絵で掲示され、理解しやすい工夫がされています。

### 前国王が建築したモダンなモスク スルタン・オマール・アリ・サイフディン・モスク



先代の28代国王が建設したモスクで、1958年完成。設計はイタリア人建築家で、欧州や中国など世界の高級素材を用いて建設されました。ここも内部見学は可能。伝統的なジャメ・アスル・ハサナル・ボルキア・モスクとは対照的な現代風のつくりなので、その違いを見るのも興味深いです。

### 絹織物や真鍮製品など伝統手工芸品を展示 ブルネイ・アート&ハンディクラフト トレーニングセンター



ブルネイの伝統工芸品の保護と若手職人の育成を目的とした施設で、金糸・銀糸を織り込んだ絹織物、銀や真鍮の細工などを見ることが出来ます。専門学校の生徒や卒業生によるデモンストレーションが不定期で行われているので、確実に見学したい場合は申し込みを。

### ブルネイ王国の歴史が学べる博物館 ロイヤル・レガリア



王家と王国ゆかりの品々が展示されています。現29代国王が戴冠式で使用した宝剣、杓などの美術品や、パレードに使われた御座車などが見られます。また、8世紀の成立を経て16世紀頃に最大版図を有し、1984年に英国から独立した国の歴史も学べます。

### イスラム教やイスラム芸術にふれる バライ・カザナ・イスラム・スルタン・ハジ・ハサナル・ボルキア



外観デザインは、ワラのルーブル美術館のガラスのピラミッドを設計した中華系米国人イオミンベイの一族によるもの。

2022年にリニューアルオープンしたイスラム教とイスラム芸術に関するギャラリー。預言者ムハンマドの遺髪、イスラム芸術品、写本、イスラム天文学の機器などを通し、イスラム芸術美の粋と歴史ある遺産を目にすることができます。

### 現地の人々の実生活や食を体験する 朝市、ナイトマーケット



市場は人々の日常生活を知る一番の手がかりです。生活様式、食生活など日本との違いを見つけることでその背景の調べ学習に繋がります。ガドン・ナイトマーケット、キアング市場、トゥン地区の木曜日がおおすすめです。

# 体験・交流 EXPERIENCE & EXCHANGE

## 現地の人と交流し 特別な絆をつくる

ブルネイにて学校交流やホームステイの受け入れも可能。英語が広く通じるので、英語学習にもなります。交流は状況に応じて要望に応じたアレンジも可能です。伝統的なレクリエーションや文化体験を通してブルネイへの理解を深めることもおすすめです。



\* 現地校訪問はすべて教育省を通して受け入れが決定します。最低3か月以上前からの事前申請が必要です。

### ブルネイならではの水上生活文化を体験 水上集落 (カンボンアイル)



ブルネイ川上に高床式の家屋が建つ東南アジア最大規模の水上集落の1つで600年以上の歴史があり、現在は1万人弱の人々が暮らしています。広大なブルネイ川のスケール、水上タクシー乗船、エアコン完備の家屋など、見るものすべてが異文化体験素材となります。

### 水上集落で伝統菓子作りやホームステイも MPKスンガイブンガ



水上集落にある村の一つで、伝統的な風作りやお菓子作り、試食などの体験が可能です。ホームステイの受け入れもしているので、水上集落で生活するというまたとない経験をする事も可能。地域社会の生活の中での人々の繋がりの強さを実感できます。

### 民族多様性や遊戯・音楽にふれる ラミンワリサン、ロングハウス、アライ・ガヨーなど



ブルネイの少数民族の集落を訪れ昔の生活習慣についての話を聞くことができます。彼らの遊びを実際に楽しんだり、音楽を聞いたりすることを通して、イスラム文化だけではなく民族多様性が学べます。日本との共通点を発見できるかもしれません。

### 屋台やフードコートで食事を味わう ガドンナイトマーケット、フードコートなど



ブルネイの食事は香辛料のクセが少なく日本人の口に合います。ナイトマーケットやフードコートは清潔に保たれ衛生的。店員との交流を楽しみながら自分で注文する体験が可能です。鶏肉や牛肉料理中心の料理も、イスラム教の国ならではの食習慣です。

## 交流可能な学校紹介

ブルネイでは海外の学生との交流を希望している学校や、独自の学習プログラムを提供している大学があり、訪問側の要望に応じたプログラムや日程を組むなど、フレキシブルな対応も可能です。英語教育のレベルは高いので、交流も問題なく行えます。

### ホスピタリティ・ツーリズム学科の 生徒たちとの交流

IBTE (Institute of Brunei Technical Education)

IBTEは、技術・職業教育訓練機関で日本の短期大学の位置づけ。ホスピタリティ・ツーリズム学部では、ホテルやレストランのオペレーションなどホスピタリティ業務や経営、運営業務を学びます。観光プログラムでは、ツアーガイド、ツアーオペレーターなど、観光産業におけるスキルを学びます。

<https://ibte.edu.bn/>

### 大学で語学研修、 熱帯雨林体験プログラムを提供

UBD (Universiti Brunei Darussalam)

UBD(ブルネイ大学)では多様なプログラムを提供。外国人向け英語研修は現在4週間のプログラムを実施し、パディと呼ばれる同年代の学生がサポートします。基本は大学生向けですが、高校生用のプログラムも検討可能です。テンロン地区のフィールドスタディセンターでは熱帯雨林について学ぶ日帰りまたは2-3泊の体験プログラムがあり、事前のオンライン学習なども可能です。 <https://ubd.edu.bn/>





# 自然・環境

NATURE & ENVIRONMENT

## 熱帯雨林や自然環境に配慮した取り組みを学ぶ

ブルネイは国土の約70%が熱帯雨林。太古の姿のままの手つかずのジャングルがあり、生息する動物や植物、昆虫の数は把握しきれないほどです。こうした自然の中での体験や、環境を守りながら自然と共存する取り組みは、世界的にも重要な学習テーマのひとつです。



### 希少なテングザルを探しながら生態系を学ぶ ブルネイ川マングローブツアー



絶滅危惧種のテングザルを探しながら、ブルネイ川をクルーズ。テングザルはブルネイのあるボルネオ島の一部にのみ生息し、川沿いのマングローブの新芽を食べて暮らします。ブルネイの自然とともにマングローブ保全とテングザル保護など、共生の関係が学べます。

### ブルネイの自然に挑んだ農園を見学 モリファーム



ブルネイは赤土が多く、農業を行うのは厳しい土地です。トゥトン地区にあるモリファームはそうした土壌を植物の持つ力と自然の摂理を理解することで7年以上かけて開拓し、モリガをはじめハーブなどを育て、持続可能な新たな産業を興した事例として注目されています。自然や起業についての学びが得られます。

### キャノピーウォークで熱帯雨林を体感 ウル・テンブロン国立公園



ウル・テンブロン国立公園ではロングボート体験とキャノピーウォークによる自然学習が可能です。800段ほどの階段を上り、高さ約60mの鉄塔から熱帯雨林を見下ろしたり、ジャングル内をトレッキング。滝や川もあり、大自然を直接体感できる、またとない経験が得られます。

### 熱帯の植物や生物を間近に観察 UBDボタニカルガーデン



UBD施設内の植物園で、ブルネイに植生しているウツボカズラをはじめとする熱帯性植物や生活に利用するハーブなどについて学べます。ブルネイに生息する小型のミツバチ「ハリナシバチ」を飼育する様子などの見学も可能です。

### コーヒー農園や産業について知る ラビ・コーヒー



ブルネイで最初につくられたコーヒー農園で、アラビカ種とロブスタ種のコーヒーを栽培。学生などの見学も受け入れており、ツアーを通してコーヒーやコーヒー豆についての特性など説明してくれます。生活に身近な素材を通して、農業についても学べます。

### ソーラー発電で稼働しているホテルを見学 ジ・アポード・リゾート&スパ



自然環境に配慮した設計と運営を行っているホテルを訪問し、その取り組みを見学します。とくに電気はソーラーシステムによる100%自家発電で、パネル展示によりくわしい説明がなされています。敷地内には野生のカワウンなども生息しています。



## ブルネイ教育旅行 実施校体験談

目黒学院  
中学高等学校  
大西 正 教諭

# 同年代の生徒たちの目線でイスラム文化を体験 将来のグローバル社会への気づきも

ブルネイの教育旅行では実際にどのようなことができ、気づきが得られるのでしょうか。現地の雰囲気や安全性、国民性、事前学習に必要なことなど、コロナ禍前の2019年にブルネイ研修旅行を行った目黒学院中学高等学校、大西正教諭にお話を伺いました。

### イスラム文化に直接触れる機会

同校では英語圏とアジア圏へのセミナー・ツアーを実施しており、2019年までに22期を数えています。これまでアジア圏ではマレーシア、中国、韓国などを訪れてきたなかで、2019年の訪問先としてブルネイを選んだ第一の目的として、大西先生は「日本になじみのないイスラム文化の本当の姿に触れること」を挙げています。さらに親国、日本の皇族との関係、進んだ英語教育、日本とは真逆の豊かな天然資源がある国、なども決め手となりました。そこで「ダイナミックな経済成長が進むアジア」を体感する一環としてマレーシアのクアラルンプールを訪れ、その後ブルネイでホームステイを含む4泊の日程で、イスラム文化圏の生活に触れながら学校交流や日本企業訪問を実施しました。

事前学習では社会科の授業でブルネイや、液化天然ガスなど天然資源がもたらす経済などについて学ぶほか、代々木にあるモスクを訪ねイスラム文化についてのレクチャーを受けました。さらに訪問先の企業で製造されている製品についてなど、「事前学習に加え、現地直接担当者に話を聞くことで学習効果を高めることにつながった。」と言います。

### 同世代との学校交流が 大きな刺激に

ブルネイではお祈りの時間になると街中に流れるコーラン、Wi-Fiとエアコンが完備された水上集落訪問など、「生徒はカルチャーショックの連続だったようだ。街は治安がよく衛生的で、ショッピングモールでのインタビュ研修は自由に行え、ナイトマーケットではローカルフードも楽しんでいた」と言います。

特に生徒たちに大きな印象を残したプロ

### アジアの一員という視点を得る

日本企業訪問もまた、海外の第一線で働く日本の方の話をじかに聞くことができる貴重な機会となりました。「海外で働くにはどのような勉強をすればいいのか、という質問をする生徒もいた。今後のグローバル社会のなかで、将来を考えるきっかけにもなったのでは」とも。

帰国後、生徒たちからは「コミュニケーションの重要性」「異文化に対するリスペクト」「イスラム教に対するイメージの変化」「実際に自分で見て感じることの大切さ」といった様々な気づきを含めた感想が寄せられました。「生徒たちの感想で、イスラム圏の研修旅行に不安を抱えていた保護者の印象も変わったようだ。総じて、ブルネイの研修旅行は“海外=欧米”を脱し、“日本はアジアの一員である”という視点に目を向けられたことに価値がある」と大西先生は話しています。



学校交流で現地生徒たちと

グラムは学校交流でした。現地の生徒たちの英語レベルの高さ、アニメやファッションなど日本文化への興味の深さに驚きながらも、「報道ではなく、同世代の生徒たちが自分たちの目線でイスラム文化に直接触れることで、彼らと共通点を大いに見出したようだ。アメリカ研修時とはまた違った意味でブルネイではのびのびと交流ができていた」と言います。



水上集落の暮らしを学ぶ



市内各所も見学

日程表 (ブルネイ滞在部分抜粋)

日程	場所	スケジュール	
1	→ブルネイ	クアラルンプール発→空路ブルネイへ (新旧モスク、王宮、博物館)ホテル着(ホテルにて夕食)	ブルネイ泊
2	ブルネイ	現地学校交流 昼食(学校にて現地校生徒と共に昼食)ホストファミリーとの対面式 ホームステイ先へ移動(ホストファミリーにて夕食)	ブルネイ/ ホストファミリー泊
3	ブルネイ	学校にて各ご家庭とお別れ オイルディスカバリーセンターセリアタウンピリオンパレルモニュメント昼食(ローカルレストランにて) BLNG, BMC(可能なところは下車)ブルネイ市内へ移動 日系企業訪問(三菱商事パイオテック社)ホテル着 夕食(ナイトマーケット)夕食後、ホテルへ	ブルネイ泊
4	ブルネイ	バスにてテンブロン国立公園へ熱帯雨林自然環境観察ツアー&ジャングル・トレッキングツアー昼食(ローカルランチ)ホテル着、その後夕食へ 総括ミーティング	ブルネイ泊
5	ブルネイ→	ホテル発、帰路へ	



# ブルネイ・ダルサラーム基本情報

国名●ブルネイ・ダルサラーム  
首都●バンダル・スリ・ブガワン  
国土面積●5767平方キロメートル(三重県とほぼ同じ)  
人口●約44万5400人(2022年)

※外国人在留者含む  
出典:ブルネイ財務経済省経済計画統計局

民族●マレー系約73%、中国系約10%、その他約17%(2022年統計)

国教●イスラム教(約65%)

公用語●マレー語(英語も広く使われている)

通貨●1ブルネイドル(B\$)=約110円(2024年2月現在)

気温●年間26~32℃

時差●-1時間(日本基準)

アクセス●ロイヤルブルネイ航空が成田空港からの直行便を運航(週4便)※2024年3月時点

香港・マレーシア・シンガポール経由で乗り継ぎも可能

電圧●230~240V、50Hz

コンセント●BFタイプ

入国●有効なパスポート(残存期間6か月以上のこと)と、事前のE-Arrival Cardによる申請が必要 <https://www.imm.gov.bn>

ビザ●日本国籍で観光目的の場合14日以内の滞在であれば不要

酒類の持ち込み●ブルネイ国内では酒・たばこの販売はなし。

酒・たばこに関して●持ち込みに制限有り(要申告)

タバコ●課税対象(要申告) ※いずれも入国時に申告が必要



祝祭日(2024年の場合)

1月1日●新年

2月8日●ムハンマド昇天祭\*

2月10日●中国歴正月\*

2月23日●ナショナルデー

3月12日●断食月初日\*

3月28日●コーラン啓示の祝日\*

4月10日-13日●ハリラヤ(断食明け大祭)\*

5月31日●ブルネイ王国軍記念日

6月17日●犠牲祭\*

7月8日●イスラム暦新年\*

7月15日●国王誕生日

9月16日●ムハンマド降誕祭\*

12月25日●クリスマス

\*移動祝祭日(イスラム暦や旧暦に基づき毎年変更する)



## ブルネイの中等高等学校の長期休暇について

毎年8月に約3週間、12月は1か月間の学校休暇有り。学校交流などで訪問を検討する際は要注意。

その他、イスラム暦に従い断食月中も休暇があるため現地情報を事前確認のこと。

## モデルコース

1日目	夜●平和の郷ブルネイに到着 車窓より首都バンダル・スリ・ブガワンの景色を見学しながらホテルへ 宿泊●ホテル
2日目	ブルネイの成り立ちと人々の暮らしを知ろう!!! 午前●王室資料館(ロイヤル・レガリア) スルタン・オマール・アリ・サイフディン・モスク (町の中心に位置し、美しい公園に隣接する美しいモスク) ジャメ・アスル・ハサナル・ボルキア・モスク (29代目現国王が建てた豪華絢爛なモスク) 午後●水上集落見学(ブルネイ人に教わる伝統のお菓子作り体験) リパークルーズ(ボルネオ島固有種のテングザルやマングローブ林観察) 宿泊●ホテルまたはホームステイ
3日目	ブルネイ人の友達を作ろう!!! 午前●現地学校訪問と学生間交流アクティビティ (ブルネイ教育省への事前申請が必要) または 国立専門学校での授業受講(観光学科、調理学科など)と交流 (具体的な要望に合わせて学校との事前調整が必要) 午後●マレー技術博物館(ブルネイの昔の暮らしの様子が学べる) 市内ショッピングセンターでフリータイム(英語を使って買い物を楽しむ) ナイトマーケット(屋根付きの設営場所に様々な屋台が並び ブルネイ地元の人々で賑わう。現地ブルネイの食べ物や果物などが楽しめる) 宿泊●ホテルまたはホームステイ
4日目	ブルネイの壮大な熱帯雨林を体感し、自然保護の取り組みを学ぼう!!! 終日●東南アジア最長の橋を渡ってウル・テンブロン国立公園へ向かう 市場訪問 ロングボートに乗り国立公園の内部まで入る トレッキング または 高さ約50メートルの鉄塔タワーに上られる キャンピーウォークを通してブルネイの自然保護の取り組みを学ぶ 夜●モスクライトアップツアー (美しくライトアップされたモスクの外観を見ながら空港に向かう) ブルネイ出発
5日目	早朝●成田空港着

画像協力: Brunei Tourism, Darussalam Services, Freme.com, BonAsia Holiday Management Service, Pan Bright Travel Service, Royal Brunei Airlines, Mori Farm

## イスラム教の慣習による注意事項

金曜礼拝●金曜正午から午後2時まで小売店、銀行、飲食店、オフィス、観光センターなどは閉店/閉館。

服装●肌の過分な露出は避け控えめな装いを奨励。モスクによっては簡易な衣服やショールの貸し出しもあり。

モスク内●

敬意を表すること。

入る前に靴を脱ぐ。

祈りを捧げている人の前は通らない。

内部写真撮影は許可を取ること。

訪問者は、サインボードに記載されている訪問時間に注意すること。



ブルネイ・ダルサラーム国大使館

〒141-0001 東京都品川区北品川6丁目5-2 TEL 03-3447-7997

E-mail [tokyo.japan@mfa.gov.bn](mailto:tokyo.japan@mfa.gov.bn) 公式サイト <http://www.bruemb.jp/>

ブルネイ・ダルサラーム 一次資源・観光省 観光開発局(TDD)

公式観光情報サイト <https://jp.bruneitourism.com/>

@brunei.tourism

@bruneitourism

お問合せ

